様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２５３０５２１

研究課題名（和文）多元主義的存在論による新しい批判的社会理論の開拓

研究課題名（英文）Development of a new critical social science by the theory of pluralistic ontology (multi-dimensional ontology)

研究代表者
佐藤　春吉（Sato, Harukichi）

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号：７０２４７８０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,700,000円、（間接経費）　510,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、マルクス、ヴェーバー、ハルトマン、ポパー、バスカー（批判的実在論）の諸理論のなかに顕在･潜在する多元主義的存在論の構想を掘り起こし、それらを総合するなかで独自の批判的社会科学の開拓を目指している。本研究期間では、M．ヴェーバーの思想・理論に実在論的な多元主義的存在論の構想が存在することを明らかにする研究を進めた。その研究「M．ヴェーバーの科学論の構図と理念型論－多元主義的存在論の視点からの再解釈の試み－」はかなり大部となり、分割論文の連載形式で順次発表を継続してきた。その間、類似した構想をもつR．バスカーらの批判的実在論の研究にも継続して取り組んできた。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research is to dig up the actual and the latent schema for Multi-dimensional ontology (pluralistic ontology) in the theories of K. Marx, M.Weber, K. Popper,N.Hartamnn and R. Bhaskar (critical realism), and to synthesize them to create a new base for an original critical social science. In this research period, I advanced my research which shows that the latent idea for realist multi-dimensional ontology in Max Weber's thought especially in his theory of social science.The manuscript which I wrote named "Max Weber's Framework of Science Theory and the Concept of Ideal-Type: A re-interpretation from a Viewpoint of Pluralistic Ontology" has grown huge, so it has continued to make announcement one by one as a division paper in series. Now are already published it's "Part 1, No.1 and No.2", "Part 2, No.1, No.2". There will be following No.3 and "Part 3". In This period, I also continued to research about the theory of social ontology of critical realism.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：多元主義的存在論　批判的実在論　社会存在論　K．マルクス　M．ヴェーバー　R．バスカー　理念型　価値自由

１．研究開始当初の背景

現代の哲学ならびに社会理論の動向は、ポストモダンや、主観主義的社会構築主義といった世界理解の時代的傾向の影響を強く受けています。このような主観主義的諸前提からは、諸個人の主観を超える社会の客観的な諸構造の現実性とその存在論的位置を明確にできず、結果的に社会的出来事の取り返しのきかない峻厳性という人間社会における諸行為のもつ倫理的問題構造がうまくとらえられなくなっています。近代のデカルト以来根強い主観主義の傾向に侵食されて、現代の社会科学においては、実在論をきちんとした基礎をもって論じることへのおじけのようなものがあり、根拠のない主観内部の知の「内的親密性」によりかかって「安心」を得る委縮状態に陥っているように思われます。こうして、現代の社会科学は、主観の存在論的位置を明確にしつつ世界の実在性とその客観的構造を分析するという社会科学の本来の方向性を見失い、自らの方法に確固たる意味づけと指針を与えることができないまま哲学的な方向喪失状態に陥っているように思われます。私は、このような近代以来深まってきた主観主義的な閉塞状況を克服し、世界の現実性と存在論的な位相の多元性を承認する実践的批判的実在論へと社会科学の方向を転換させる道を見いだすべきだと考えてきました。

「多元主義的存在論」は私のオリジナルな構想です。

私は、啓蒙主義批判の文脈でマルクス思想を読み解く作業をすすめるなかでマルクスに多元主義的存在論の萌芽を見いだしました。しかし、従来型のマルクス主義では、ヘーゲル主義に由来する一元論的傾向が根強く、この傾向がスターリニズムの誤りにもつながったとの認識から、多元主義の方向性を伸張させ、その問題点を克服する可能性を探ってきました。その作業は、ヴェーバーやポパーらの自由主義思想にみられる社会と個人の関係理解、存在と認識の関係理解、人間の自由の根元としての「価値自由」の思想についてその意義を理解する作業と結びつけて進められてきました。ポパーのマルクス主義思想の「歴史法則主義」への鋭い批判には正当なものがあり、この批判の論拠のなかには、存在と認識の関係、世界における人間の実践的自由の可能条件についての深い洞察があり、その根底には実在論と非決定論、３世界論による存在論的多元主義の構想が据えられています。ヴェーバーは、一般的には新カント派に属する観念論の立場とみなされていますが、その価値関係論と客観的因果性の区別と連関の強調、実在と概念の峻別を強調する理念型論、価値自由論における価値領域と実在領域の区別などは、これまで理解されてきたような認識論的区別ではなく、存在論的区別として解釈可能であり、ヴェーバーには実在論的な多元主義的存在論というべき思想が存在しているとう確信を得ました。

こうして、マルクスの思想のなかに見出された多元主義的存在論の可能性の探求は、ヴェーバーやポパーといった相互に異質な思想を結合する新しい多元主義的存在論の構想に成長してきました。これによって、マルクス思想は人間の自由の可能条件の自覚をともなうものへとデコンストラクションが可能であり、その方向は、ヴェーバー、ポパーの思想との本質的な共通点に照らして実りある対話関係を生み、全く新しい批判的社会理論へと総合することができると考えるようになりました。

なお、この作業を遂行するうえで、N.ハルトマンの多元主義的存在論の哲学から多くのヒントを得てきました。ハルトマンの哲学は、近代の認識論主義的な哲学傾向への根底的批判を含み、世界の多元的存在次元の媒介と複合に関する深い考察を示しており、多元的存在論を完成させるための哲学的な諸問題の解決に多くのヒントを与えてくれるものと考えています。

また、この間の研究において、私の多元主義的存在論の構想ときわめて類似した議論を展開しているイギリスのＲ．バスカーらの批判的実在論研究グループの存在を知り、彼らから学び、彼らと交流を持ちながら、ライフワークとなった本研究構想を進めていくことになりました。

当初の研究構想の背景は以上です。現在は、実在論的多元主義的な社会存在論の構想は、Ｊ．サールの社会存在論の展開を含め、理論系譜を異にするもう少し広い研究動向のなかにも見て取れる有望な理論展開の方向性だとその確信を強くしています。

２．研究の目的

本研究テーマは、私自身のオリジナルな構想であり、長期の研究を必要とるすライフワーク的なものになっています。その課題からして、一挙に完成をみることは難しく、長期的展望をもちながら、一歩一歩段階的に進めるべきものと考えています。本研究期間の当面の中期目標は、「多元主義的存在論」の理論構想のアウトラインを提示し、それに基づいた批判的社会科学の基本構造と発展方向を明示するような著作の執筆です。しかし、そのためには、まず、本構想を支える既存の諸理論（マルクス、ヴェーバー、ポパー、ハルトマン、批判的実在論）についてのより丁寧な内在的研究によって、それぞれの思想のなかに潜在的にまたは顕在的に示されている「多元主義的な存在論」を探り出し、その意義と制約をそれぞれについてきちんと評価する作業が欠かせません。

そこで、本研究期間において、第一の重要課題としたのは、私の初期のマルクス研

究を土台にしつつ、ヴェーバーのなかに実在論的な多元主義的存在論といえる思考を探り出し、ヴェーバーの社会学を、そうした視点からとらえ返すことによって、マルクス思想と対話可能な共通地盤の存在を証明することです。それによって、マルクスの社会理論とヴェーバーの理解社会学や行為論、理念型論、社会制度論との共同が可能になり、新しい批判的社会科学の可能性を見いだすことができると考えています。

第二の課題は、現在活動中の批判的実在論研究グループの理論動向を探り、この理論と彼らの現在の研究から、多元主義的存在論の基礎づけのための諸論点を学び取り、本研究の遂行に生かし、内容的な豊富化にと努めることです。

第三には、上記第一のヴェーバー研究の課題を仕上げたら、N．ハルトマンやK．ポパーの諸理論についても、批判的研究を深め、その理論内容の全体的把握や評価を確定させ、それらの成果を多元主義的存在論の展開に生かす作業です。

第四に、上記の諸作業の蓄積の上に、多元主義的存在論の構築のための理論的なアウトラインが論証的に示されるものと展望しました。

３．研究の方法

本研究は、研究代表者個人による理論研究であり、研究方法としては、関連文献の読解と研究者間の研究交流、自ら行う探究的な思索による理解の進展と深化を追求することに尽きます。

４．研究成果

本研究期間では、以上のようなねらいと当面の目標、中期目標を掲げて研究を行いました。実際の研究においては、それぞれの課題を常に視野におき、思索の対象としてきましたが、具体的成果としては、結果的に、第一の課題と第二の課題に関する研究にとどまりました。

（１）ヴェーバー研究の前進とその成果

特に、第一課題であるヴェーバー研究は、以前行った「価値自由論」の多元主義的存在論的な視点からの読解の成果にもとづいて、今回は「理念型論」に焦点をあてながら、ヴェーバーの社会科学論の全体的な理論構図を析出し、そのなかに、実在論的な多元主義的存在論的世界了解が読み取れることを明示することを目標としました。すでにこの解釈の構想の概略と論証の見通しは、かなり以前から暖めていたものであり、確実な成果が見通せていた課題でした。

しかし、上記の主張は、大方のヴェーバー解釈を覆すような研究であり、その論証にあたっては慎重を期し、丁寧な内在的な解読を進める必要がありました。そのため、非常に時間のかかる作業となってしまいました。とはいえ、研究は進み、当初の論証目的の正当性がますます明瞭になりました。　その研究の過程で、当初の見通しになかった予想を超える発見もいくつかありました。それらの研究を、論稿に作成する作業を進めるなかで、結果的には、当初の計画を大幅に超えて、かなり多岐にわたる論点に踏み込んだ結果、その分量が大幅に増えることとなりました。

第一次の論稿は書き上げましたが、分量が多くなったために、その成果発表を一挙に行うことができず、当初の原稿を大きく３分割し、「M．ヴェーバーの科学論の構図と理念型論－多元主義的存在論の視点からの再解釈の試み－」という統一の副題をもつ、それぞれ独立の論文として連載形式で発表することとしました。当初の草稿をもとに、各論点を絞って連載形式の独立論文に改訂改良するなかで、論証の補強に努めた結果、３分割した論文がさらに「その１」論文「M．ヴェーバーの文化科学と価値関係論」（上）（下）、「その２」論文「M．ヴェーバーの現実科学と因果性論」（上）（中）（下）などに分割することになりました（「その２」論文（中）まで公刊済み）。

なお、今後、「その３」論文「M．ヴェーバーの理念型論その実在論的意味（仮）」（上）、（下）も引き続いて公刊する予定です。

ともあれ、結果的に、本研究期間内に当該研究成果の連載刊行が完了せず、現在も連載が継続することとなっています。その点、当初計画を大幅に狂わす結果となったことをお詫びしなければなりません。

とはいえ、私としては、念願のヴェーバー思想の多元主義的存在論の視点からの読解と、マルクス思想との共通基盤の析出という課題が、当初の予想を超えてさらに実りの多い成果に結実したことについては、重要な成果であったと自負しています。

（２）批判的実在論研究

今期第二の課題である批判的実在論研究については、私の勤務校に私を代表者として「批判的実論研究会」ができ、恒常的な研究会活動が組織されたこともあり、第一の課題の遂行とともに、並行してその研究を進めることができました。この過程で、批判的実在論についての理解が深まり、多元主義的存在論との対比関係についての理解もさらに前進しました。今期の研究成果としては、まだ批判的実在論の紹介を中心とするものにとどまっていますが、さらに研究を進め、批判的な考察による多元主義的存在論の豊富化につながる研究を目指しています。

具体的には、金沢大学経済学研究科「学際総合の可能性」研究会で、「批判的実在論と学際研究の可能性」と題する報告を行いました。また、論文「批判的実在論（Critical Realism）と存在論的社会科学の可能性」を執筆しました。なお、批判的実在論グループの研究者M．アーチャーの論文「主観性の存在論的位置－構造とエイジェンシーをつなぐ失われた環－」の翻訳をおこない、立命館大学人文科学研究所研究紀要に掲載しました。

また、現在、私が監訳者となり、研究会メンバー共同で、スエーデンの研究者Berth Danermark らによる批判的実在論に基づく社会科学方法論の優れた入門書 Explaining Society の翻訳作業を進めています。作業は進んでおり、2014 年度中にはナカニシヤ書店より刊行の予定です。

なお、期間中、2013 年の「批判的実在論のための国際学会」（Nottingham University）に参加し、研究動向調査と研究交流をおこなう貴重な機会をもつことができました。

※その他の課題では、本期間中にはまだ具体的成果を残すことができませんでした。

5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　6　件）

(1)翻訳（単独訳）；佐藤春吉訳、 マーガレット・S．アーチャー著「主観性の存在論的位置：構造とエイジェンシーをつなぐ失われた環」『立命館大学人文科学研究所紀要』No.104，149-177 頁,2014 年 3 月、
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/hss/book/pdf/no104_07.pdf
査読なし。

(2)佐藤春吉「M．ヴェーバーの現実科学と因果性論（中）―M．ヴェーバーの科学論の構図と理念型論-多元主義的存在論の視点からの再解釈の試み-その２」在論の視点からの再解釈の試み-その２」（立命館大学産業社会学会編『立命館産業社会論集』49 巻 4 号）15-35 頁、2014 年 3 月、
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ss/sansharonshu/494pdf/49-4_02-02.pdf,
査読なし。

(3)佐藤春吉「M．ヴェーバーの現実科学と因果性論（上）―M．ヴェーバーの科学論の構図と理念型論-多元主義的存在論の視点からの再解釈の試み-その２」（立命館大学産業社会論集 49 巻 2 号）、1-21 頁、2013 年 9 月、
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ss/sansharonshu/492pdf/49-2_02-01.pdf ,
査読なし。

(4)佐藤春吉「M．ヴェーバーの文化科学と価値関係論（下）―M．ヴェーバーの科学論の構図と理念型論-多元主義的存在論の視点からの再解釈の試み-その１」（『立命館産業社会論集』48 巻 4 号）19-39 頁、2013 年 3 月、
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ss/sansharonshu/484pdf/48-4_02-02.pdf、査読あり。

(5)佐藤春吉「M．ヴェーバーの文化科学と価値関係論（上）―M．ヴェーバーの科学論の構図と理念型論-多元主義的存在論の視点からの再解釈の試み-その１」『立命館産業社会論集』48 巻 3 号）1-18 頁、2012 年 12 月、
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ss/sansharonshu/483pdf/48-3_02-01.pdf 、
査読あり。

(6)佐藤春吉「批判的実在論（Critical Realism）と存在論的社会科学の可能性」（唯物論研究協会編『唯物論研究年誌』第 17 号、大月書店）200-216 頁　2012 年 10 月．査読なし。

〔学会発表〕（計 1　件）

(1)佐藤春吉「批判的実在論と学際研究の可能性」（金沢大学経済学研究科「学際総合の可能性」研究会（同研究科招待）（於：金沢大学）．2013 年 3 月 26 日。

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
佐藤　春吉　（SATO,Harukichi）
　立命館大学・産業社会学部・教授
　研究者番号：70247807

(2)研究分担者
（　　）

　研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

　研究者番号：